

2024 年度国際交流事業

—中国：珠海市 広州市 恵州市 遵義市 における学校訪問—

授業：選択グローバル実践教育

酒井 悟

1 講義について

本科目は東アジアの学校教育を観察し、その特色を日本と比較することで、共通点と相違点を理解することを目指す。そのために、①教育研究、②学校での授業実践、③学校及び地域教育施設見学の3つの交流活動を通して、グローバル社会の教育課題を理解する方法論を実践的に獲得することをねらいとした2単位の選択講義である。

2 講義計画

昨年度に引き続き中国を訪れた。今年度は、夏頃より日程調整をしながら、以下の計画の基、北京師範大学珠海分校校区と京師南奥実験学校、惠州実験学校、CAREY SCHOOL を訪問した。

(1)授業

選択（集中 後期開講）

グローバル実践教育

(2)参加者

大学教員	5 名
教職大学院生	3 名
教育学部生	4 名
創生学部生	1 名
通訳（院生）	2 名
他院生家族	6 名
計 21 名参加	

(3)日程

11 月 2 日（土）

- ・北京師範大学珠海分校校区打ち合わせと交流会

11 月 3 日（日）

- ・新潟大学教職大学院生と北京師範大学珠海分校校区院生との課題研究発表会

11 月 4 日（月）

- ・惠州実験学校視察

11 月 5 日（火）

- ・新潟大学教職院生の授業実践①
- ・南奥実験学校視察

11 月 6 日（水）

- ・新潟大学教職院生の授業実践②

11 月 7 日（木）

- ・遵義市 CAREY SCHOOL 視察

11 月 8 日（金）

- ・新潟大学教職院生の授業実践③

11 月 9 日（土）

- ・移動

3 活動

(1) 新潟大学教職大学院生と北京師範大学珠海分校校区院生との課題研究発表会

ア 期日

2024 年 11 月 3 日（日）

イ 発表者

新潟大学教員 2 名

北京師範大学珠海分校校区大学教員 2 名

新潟大学教職大学院生 3 名

北京師範大学珠海分校校区大学院生 3 名

ウ 会場

珠海市桃園中学校



エ 発表内容

両大学教員 4 名が両国の教育課題について、院生 6 名がそれぞれ自分の追究している課題研究について発表を行った。質疑を交えて一人 20 分で発表を行った。

時間	報告者の氏名と所属	報告テーマ
8:50-9:10	楚江亭（中国・北京師範大学教育学部教授）	学習者中心の未来教育へ
9:10-9:30	宮蘭蘭（日本・新潟大学教職大学院名誉教授）	社会的事象を多面的多角的に理解する授業～「グローバル化」の教材開発を踏まえて～
9:30-9:50	江畑正平（日本・新潟大学教職大学院院生）	「当事者意識」と「思考力・判断力」に着目した社会科授業改善
9:50-10:10	范勝明（中国・北京師範大学未来教育学院博士、広東仲元中学校附属学校主任）	大概念に基づく歴史の学際的テーマ学習
10:10-10:20		ティーブレイク
10:20-10:40	斎藤崇人（日本・新潟大学教職大学院院生）	保護者・地域・学校の連携が児童の学びに向かう力に及ぼす効果～コミュニティ・スクールを活用した阿賀学の作成を通して～
10:40-11:00	李花（中国・北京師範大学未来教育学院博士、东莞理工学院附属幼稚園園長）	STEAM 理念に基づく大学附属幼稚園の科学探究カリキュラムの研究
11:00-11:20	鄭連輝（中国・北京師範大学未来教育学院博士、中山市坦洲町教育・体育事務センター教員）	大単元教育視点による中学校歴史の学際的学習
11:20-11:40	早川英佑（日本・新潟大学教職大学院院生）	小学校高学年児童の学校行事を通じた主体性育成指導とキャリア教育
11:40-12:00	酒井悟（日本・新潟大学教職大学院准教授）	個別最適な学びと探究的な学び～小学校理科の実践から～
12:00-12:20	胡学亮（中国・北京師範大学人文と社会高等研究院教授）	科学教育における共創性学習理論の応用

大学院生の他に、会場となった珠海市桃園中学校教員も参加しての会となった。新潟大学教職大学院生は、自身が課題研究で取り組んでいる内容について発表した。北京師範大学珠海分校校区院生からは、単元学習、STEAM 理念に基づく幼児教育についての発表があった。現在の教育課題や取り組んでいる事柄で、両国に共通点が多いことを知る機会となった。また大学教員も、それぞれの研究分野における発表を行った。

会場となった珠海市桃園中学校の施設設備を見る機会ともなった。各教室には、ICT

機器が完備されていた。授業で頻繁に活用されていることが分かった。屋上に菜園があったり、教職員専用のジムが完備されていたりと、地域や環境に合わせた施設が整っていた。



(2) 惠州実験学校視察

ア 期日

2024 年 11 月 4 日（月）

イ 内容

惠州市視察

珠海市から惠州市に移動し、惠州の自然を活用した施設や中国の雰囲気感を漂わせる施設を巡った。すぐ隣には、近代化が進む街並みが見られ、時代の融合が感じられた。



(3) 惠州実験学校での授業

ア 期日

2024 年 11 月 5 日（火）

イ 内容

惠州実験学校で授業参観と、新潟大学教職大学院生と学部生による飛び入り授業を 4 実践行った。

斎藤崇人(M2) 5年総合 地域
 江畑正平(M1) 3年社会 地域
 早川英佑(M1) 5年英語 Unit5
 小野寺陽(学部) 2年生活 日本の正月
 小池美樹子(学部)
 渡邊美雨(学部)
 能登遥菜(学部)
 山岸虹太(学部)



自身の勤務校とリモートで繋ぎ子ども同士の交流授業を行ったり、自身の勤務校の地域教育を軸にして両国の相違点について追及したりする授業を行った。



(4)南奥実験学校での授業

ア 期日

2024年11月6日(水)

イ 内容

斎藤崇人(M2) 2年算数 割り算
 江畑正平(M1) 4年算数 面積
 早川英佑(M1) 2年英語 Unit5
 小野寺陽(学部) 2年生活 日本の正月
 小池美樹子(学部)

渡邊美雨(学部)

能登遥菜(学部)

山岸虹太(学部)

酒井悟(教員) 3年理科 ものの重さ

昨年度に引き続き、授業実践を行った。大学教員、院生、学部生で5実践行った。今年度は、トピック的な授業ではなく、日本で実際に行われている授業内容で実践してほしいということ、算数・理科で実践してほしいというリクエストがあった。そこで、筆者も授業をすることにした。授業をすることで、日本の子どもたちと同じような思考をすることの気づきや協働的な学びの場の充実を感じることができた。



(4)遵義市内視察

ア 期日

2024年11月7日(木)

イ 内容

遵義市内と CAREY SCHOOL の視察を行った。これまで珠海市や広州市といった沿岸部の市内での視察であったが、内陸に入った遵義市の視察を行ったことで、中国の国土の広さやそれに伴う文化や生活習慣の違いに触れる機会となった。

CAREY SCHOOL では、全寮制の私学ということもあり、これまでの学校とは趣が異なっていた。書道や音楽ばかりではなく、プログラミングといった専門教室を備えていた。授業を別室から参観し分析できる授業研究用の教室も備わっていた。



(4) CAREY SCHOOL での授業

ア 期日

2024 年 11 月 8 日（金）

イ 内容

江畑正平(M1) 4 年算数 面積

早川英佑(M1) 江畑と T・T

酒井悟（教員）3 年理科 ものの重さ



CAREY SCHOOL では、院生が算数の面積の授業を T・T で、筆者が理科の授業を行った。実に反応が良く、自分の考えを出し合って学びを深めていた。

授業は、CAREY SCHOOL の教員も英語と理科の授業を公開してくれた。

午後は、午前中の授業交流を基に、協議会を行った。授業の構想の意図、現在の両国の教育課題を具現するための授業の在り方など、協議会は 2 時間にも及んだ。

4 評価および今回の講義の特色

(1) 単位認定

帰国後、長編と短編の記録動画を編集した。その記録動画をもって本講義は単位認定とした。この記録動画は、第五領域「社会のグローバル化と学校・教師の課題」の中で視聴し、成果発表とした。

(2) 教育事情の交流

中国との交流の中で、教育課題の他に、教育課程や人材育成、研修の話題も出た。学校が抱えている教育課題は、日本とも共通する部分が多かった。教育課程編成、担任制、教員の昇級制の違いからくる特色ある学校づくりの推進の仕方の相違については、熱心に情報共有が行われた。

参加した院生からは、「中国に行き街や学校、授業を視察することで、中国の情勢を直接知る機会となった。また、日本の教育の方針や現状を再認識することができた。」という声が聞かれた。

この授業は、本教職大学院の特色ある教育実践と言える。

(3) リモート活用

今年度の訪中でもリモートを活用して、日本にも交流活動の様子を中継した。具体的には、北京師範大学珠海分校校区院生との研究発表会と南奥実験学校での授業である。今回受講していない院生や教職大学院教員が参観した。画面越しではあったが、中国での授業や教育環境を参観でき、グローバル教育への関心が高まった。